

【目的】軽費老人ホーム(以下、軽費)は、個室であること、契約入所であることに加えて、入所者の身体状況の面からも、特別養護老人ホームや養護老人ホームより有料老人ホーム(以下、有料)に類似している。しかしながら、閉鎖的・隔離的施設観は払拭されているとはいいがたい。本研究は軽費入所者の生活行動の実態を把握し、それを規定する要因を考察し、望ましい高齢者施設の指針を得ようとするものである。

【方法】軽費入所者の施設内外の友人数、外出行動、家族交流等を把握するための面接調査を行なった。調査対象は近畿圏の軽費5ヶ所の全入所者とした。

【結果】入所者特性を有料と比較すると¹⁾、世帯構成では軽費は独居が大半であり(有料は夫婦世帯が37%)、後期高齢者の割合が高い(軽費75%、有料33%)。子女の有無では軽費は72%が子女を有するのに対し、有料は49%である。入所直前の子供世帯との同居は軽費39%、有料6%である。老研式活動能力指標²⁾によるADLの測定結果は、在宅高齢者²⁾と比較すると、社会的役割の活動が低い。施設内外の交流に関して、男性は施設内交流が低く、交流対象を外部に求め、女性は反対の傾向を示す。一因として男性占有率の低さ(9~27%)を指摘することできる。施設内外の交流程度により析出した入所者類型と主観的幸福感をみると、施設内交流の活発な類型でもっとも幸福感が高く、施設内交流が不活発で外部に交流を求めざるをえない類型がもっとも幸福感が低いという結果を得た。

¹⁾ 都 順子：高齢者の健康状態と住要求に関する研究，奈良女大修士論文，(1992)

²⁾ 古谷野亘：地域老人における活動能力の測定，日本公衛誌，34，109~114 (1987)